

インフルエンザが流行っています！

「あ、その咳、そのくしゃみ～咳エチケットしてますか？」

今シーズンのインフルエンザは昨年に続いて例年より早い流行となっています。感染症発生動向調査では、インフルエンザ定点医療機関から、臨床診断されたインフルエンザ患者数が週単位で報告されます。山梨県では10月下旬から患者が報告され、全国的にみても最も早い流行となりました。当研究所では10月25日に採材された患者からインフルエンザウイルスA香港型(H3N2)が初めて分離されました。1月31日までに、76人の患者からウイルスが検出され、A香港型が65株、Aソ連型(H1N1)が10株、B型が1株でした。月別では10月から12月までA香港型が大部分を占めました。しかし、12月から新たにAソ連型が検出され始めたことから、Aソ連型の流行拡大が懸念されます。今シーズンのAソ連型は抗インフルエンザ薬のオセルタミビル(商品名タミフル)耐性であることがわかってきましたのでAソ連型の流行について特に注意が必要です。今シーズンのAソ連型、A香港型の抗原解析(HI試験)の結果、抗原性がワクチン株にほぼ類似していることから、ワクチンによる予防効果が期待されます。

インフルエンザの予防方法は、うがい・手洗いの励行、マスクの着用、ワクチン接種、抵抗力をつけるための十分な栄養と睡眠などがあります。厚生労働省は今シーズン、「あ、その咳、そのくしゃみ～咳エチケットしてますか～」という標語を掲げ、「咳エチケット」によるインフルエンザ予防を呼び掛けています。「咳エチケット」とは次の4つです。①咳・くしゃみ際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。②呼吸器系分泌物(鼻汁・痰など)を含んだティッシュをすぐ蓋つきの廃棄物箱に捨てられる環境を整える。③咳をしている人にマスクの着用を促す。④マスクの着用は説明書をよく読んで、正しく着用する。インフルエンザの感染経路は咳やくしゃみで飛沫した鼻や喉の分泌物を直接吸入することで感染する飛沫感染です。このほか、鼻咽頭分泌物によって汚染された物品を介して間接的な感染も起こり得ます。「咳エチケット」に気をつけてインフルエンザの予防に心がけたいものです。

厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/index.html>)

今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

型	10月	11月	12月	1月	計
Aソ連型(H1N1)	0	0	5	5	10
A香港型(H3N2)	8	42	10	5	65
B型	0	0	1	0	1
計	8	42	16	10	76

(2009年1月31日現在)

(微生物部ウイルス科)